

## 令和6年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

建学の精神に則り、未来を生き抜くことができる資質・能力を培い、社会に貢献する自立した女性を育てる学校をめざす。本校では、「社会に貢献する自立した女性」を育成するために必要な資質・能力を、学力・協働性・主体性の3つと考える。この3つの資質・能力を構成する、『学ぶ力、考える力、解く力、認め合う力、行動する力（KINRAN PRIDE）』を全ての教育活動を通じて育成する。

#### (1) 学力

- ① 学ぶ力＝生涯にわたり絶えず学び続けようとする意欲・姿勢
- ② 考える力＝習得した基礎的・基本的な知識・技能を、社会における様々な場面で活用できる力
- ③ 解く力＝習得した知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果を獲得するとともに、その成果を発信する力

#### (2) 協働性

認め合う力＝「ありのままの自分」を認め、他者の多様な個性や価値観、文化を理解し互いを尊重し人間関係をつくる力

#### (3) 主体性

行動する力＝自らの役割を把握し、その役割を果たすため、自リツ(自立・自律)的に行動する力

### 2 中期的目標

#### (1) 学校教育デザインの確立

##### ① 学校教育デザインの具体化

全ての教職員は、「これからの社会に貢献する自立した女性」を育成する学校教育デザイン（めざす学校像・生徒に育みたい力）を具体化、共有化し、生徒・保護者に発信するとともに、日々の教育活動を見直し、生徒指導、学習指導を改善する。

##### ② 「5つの力」の育成を実現する魅力的な学校づくりの推進

ア) グローバル人材の育成と近年強化していた英語教育の取り組みを活かした国際理解（GS）コースを設置する。

イ) 学校教育デザイン（めざす学校像・生徒に育みたい力）に向けて現コースの成果と課題を検証し、コースのカリキュラム改編を含めコースの再編を検討する。

ウ) 中学部においても、その成果と課題を検証し、円滑な中高接続ができるように、カリキュラム改編を含め中学部の充実を図る。

#### (2) 学力の向上

##### ① 学力向上策（基礎学力・学習習慣定着策）の実施

ア) 教職員は自ら「学ぶこと」の重要性を理解し、それに基づいて教育活動を行う。

イ) 多様な生き方を自分で判断し選択できる女性を育成するために、教職員は生徒に対して、「学ぶこと」の意味を理解させ、「学ぶ意欲」を喚起することで「自己効力感」を持たせる。あわせて、授業規律の確立、ICTの活用などで家庭学習の定着を図ることで、基礎学力の充実を図る。

##### ② 授業力の向上

教職員の授業力向上を図ることで、すべての教科において、アクティブ・ラーニングを推進し、基礎的な知識や技能を活用し、論理的に考え、まとめ、発表する力を育成する。

##### ③ 「総合的な探究の時間」のプログラムの確立

「総合的な探究の時間」（高校）・「総合的な学習の時間」（中学）のプログラムを確立するなかで、多様な人々・文化の出会いを通じて、コミュニケーション力、課題設定・課題解決能力を育成する。

#### (3) 進学実績の向上

##### ① 3年間・6年間を見通した進路指導体制の確立

ア) 進路指導部は、各学年・教務部と連携し実力テストや模試等の客観的なデータを活用し、高校3年間を見通した進路指導体制を確立し、これからの社会で自立して生きていくために必要とされる、進路意識の醸成としっかりとした学力を育成する。

イ) 中学部は進路指導部と連携し、中高連携を図り、高校進学を含めた6年間を見通した進路意識の醸成としっかりとした学力を育成する。

##### ② キャリア教育の推進

これからの社会に貢献する自立した女性を育成するため、各コースは、金蘭会の強みである教育的リソース（大学、保育園、病院等）を活用したキャリアプログラムを確立し、社会で求められる女性の生き方、働き方を考える、3年間・6年間を見通したキャリア教育プログラムを策定する。

##### ③ 千里金蘭大学・金蘭会保育園との連携

千里金蘭大学とのより効果的で密接な連携により、内部進学者を増加させる。

#### (4) 安全安心な学校づくりと自立・自律する力の育成

##### ① 人間関係づくりの充実

各学年が、HRや道徳、学校行事等を通じて、生徒一人ひとりが多様な生き方を自分で判断し選択できる女性に必要とされる、自分のすばらしさを認め他者を尊重し受け入れる豊かな心を育み、多様性を尊重し共生する力、自立・自律する力を育成する。

##### ② 生徒の主体性の育成

生徒指導部は、生徒指導方針や学校行事の目的・意義を再確認し、多様な生き方を自分で判断し選択できる女性に必要とされる主体的に考え行動する力を育成する。

##### ③ 支援が必要とされる生徒への対応

ア) すべての教職員は、「支援」という観点で日々の教育活動を見直す。

イ) 生徒支援委員会は各学年と連携して、発達特性や不登校傾向生徒への支援策を検討し実施する。あわせて、スクールカウンセラーだけでなく、外部の医療機関等との連携も強化する。

#### (5) 魅力的な学校づくりと機能的な学校運営の確立

##### ① 募集広報活動の強化と体制の充実

本校がめざす新たな教育の魅力を全面的にアピールするため、保護者や受験希望者、中学校や塾等のニーズを把握し、評価と分析を徹底し効果的な募集広報戦略を立てる。

##### ② PDCAサイクルの徹底

各分掌・学年は、具体的なデータや根拠に基づいた総括や評価を徹底し、課題と方針を明確にするPDCAサイクルを確立する。

##### ③ 組織運営体制の充実と教師力の向上

機能的な組織運営を図るため、職務の役割と責任を自覚する。計画的な人事計画のもと、適切な教員配置を実現する。また、外部教育機関等との連携を深め、教職員のスキルアップを図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>学力の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「授業満足度」 保護者 66→67(1)↑ 生徒 71→80(9)↑ ◇授業についての評価は上昇しているがまだ低い。</li> <li>● 「家庭学習定着」 保護者 73→75(2)↑ 生徒 69→74(5)↑ 教員 65→68(3)↑</li> <li>● 「授業改善」 保護者 79→77(-2)↓ 生徒 73→81(7)↑ 教員 77→95(8)↑</li> <li>● 「参加体験型」生徒 48→50(2)↑ 教員 71→84(13)↑</li> <li>● 「考えをまとめ発表」生徒 83→79(-4)↓ 教員 65→74(9)↑</li> <li>● 「ICT等の活用」生徒 92→91(-1)↓ 教員 65→90(25)↑</li> </ul> <p>◇高校や中学部とも、国語、数学、英語においても到達度別及び少人数授業を実施し、学びなおしの観点からも評価されている。また、中学校では、英語ハ7-アッププログラムを今年度より本格的に実施している。</p> <p>◇ただ、「授業改善」の評価が低下している。「考えをまとめ発表」、「ICT等の活用」について、生徒の評価が減少している一方で、教員の評価が上昇するという意識の乖離があり、生徒主体の授業への改善が急務である。</p> <p>◇「総合的な探究の時間」、各コースで実施されている科目「探究」だけでなく、他教科での問題解決型学習への取組みを推進し、「思考力・判断力・表現力」の育成をさらに推進する必要がある。</p> <p><b>進学実績の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「キャリア教育」保護者 94→91(-3)↓ 生徒 91→89(-2)↓ 教員 71→79(8)↑</li> </ul> <p>◇進路HRや総合的な探究の時間、「キャリア」を通じて高1の段階から計画的な進路指導、進路指導部主催の「保護者対象の勉強会」等の実施により一定の評価を得た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「進路指導での連携」保護者 85→80(-5)↓ 教員 82→74(-8)↓</li> <li>● 「進路に関する情報提供」保護者 85→84(-1)↓ 教員 82→84(2)↑</li> </ul> <p>◇「連携」・「情報提供」は数値を下げており、担任を中心に各学年が、進路指導部と連携を強化し、3年間を見通した進路指導が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「地域との連携」保護者 91→91(0) 生徒 71→76(5)↑ 教員 82→90(8)↑</li> <li>● 「大学等との連携」保護者 91→91(0) 生徒 71→71(0) 教員 77→77(0)</li> </ul> <p>◇千里金蘭大学・金蘭会保育園との連携の強化と、進路探究プログラム・看護医療職プログラムの完全実施により系統だった指導が高く評価されている。ただ、生徒の進路希望を考慮すると他大学との連携強化が必要である。</p> <p>◇今年度より中学部が「職業体験」(15事業所、2日間)の実施や、従来の地域の幼稚園との交流だけでなく、「Kinran ハロウィン」の開催など地域との連携を強化することでできている。今後、地域の諸団体との連携が重要である。</p> <p><b>安全安心な学校づくりと自立・自律する力の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「学校行事」保護者 91→89(-2)↓ 生徒 85→85(0) 教員 82→95(13)↑</li> <li>● 「生徒自治会活動」 保護者 89→83.0(-6)↓ 生徒 84→80(-4)↓ 教員 65→68(3)↑</li> </ul> <p>◇蘭祭と体育祭において、生徒が主体となった取組みが一定定着しているが、「自治会活動」について教員の評価が上昇している反面、保護者・生徒の評価は低下している。</p> <p>◇生徒にやらされ感・不満の表れであり、『生徒を主人公に』という観点で、自治会を核に学校生活[学校行事]の企画運営を委ね、自ら行動する力を育成する必要である。</p> <p>◇中学部では、様々な行事や取組みが「マーチフェスタ」をゴールに3年間を見通し、個々の成長を共有し、主体的に活動する生徒を育成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「生徒指導方針」 保護者 82→80(-2)↓ 生徒 79→80(1)↑ 教員 59→74(15)↑</li> <li>● 「方針への共感」保護者 92→78(-14)↓ 生徒 71→80(9)↑</li> </ul> <p>◇「方針」、「方針への共感」について、保護者の評価が大きく低下している。今年度生起した生指案件の多くはSNS関連であったため、学校・学年を挙げて弁護士、警察等とも連携し取り組んでいるが、より保護者の理解と協力が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「いじめへの対応」 保護者 89→87(-2)↓ 生徒 78→77(-1)↓ 教員 65→74(9)↑</li> <li>● 「教育相談体制」 保護者 86→83(-3)↓ 生徒 62→59(-3)↓ 教員 65→84(19)↑</li> </ul>	<p><b>■ 第1回</b></p> <p><b>議題</b> 令和6年度学校経営計画及び学校評価資料について</p> <p><b>報告</b></p> <p>○学校より令和6年度 学校経営計画及び学校評価について説明 めざす学校像である「社会に貢献する自立した女性を育てる学校」を軸に具体的な教育活動を行う説明を次の3項目を中心に報告を行った。</p> <p>◆学力の向上 ◆進路実績の向上 ◆安心安全な学校づくりと自立・自律する力の育成</p> <p><b>委員からの意見</b></p> <p>○今年度も学校設定科目である「文化理解」、「探究A」で問題解決型学習の取り組みについて実施している。社会に出ていくうえで重要な基礎的な学力、広い観点から物事をとらえ社会の問題について考えるとともに具体的に取り組む力をつけている。結果として、指定校、推薦の進路選択が多い状況だったが、多岐に渡りチャレンジしていく生徒が多くみられ意識の変化がみられる。</p> <p>○今年度より職業体験を実施する。今まで職業体験の話聞く機会はあったが自ら体験することはなかった。今年度(11月21日・22日)15事業所で実施する。立地がよいためコンビニエンスストア、小学校、保育園、ホテル、動物病院、大手家電量販店、大手喫茶店チェーンなど他校ではいくことができない事業所での体験が可能となった。1つの事業所に1名~2名で体験仕事の大変さ、社会人としての振る舞いなどを学びながら、将来の夢の実現に繋がり、考える機会となればと思っている</p> <p>○保育園との合同避難訓練を実施する。生徒の命を守る学校が同時に保育園児の小さな命も守る。生徒にとっても大切な教育であると感じた。エレベーターが使用不可の状態 で保育園児の避難をはじめ、状況によっては限られた場所で一緒に共同生活が始まる可能性もあることなどを生徒に伝える学習の機会にもなった。</p> <p>○兵庫県はトライやる・ウィーク(職場体験)を実施している地域でも実施中とわかるようにのぼりがあがっており地域は温かく見守っている。金蘭会でも職業体験をされていることが 広がることを願っている。</p> <p>○職業体験などいい取り組みだと感じた。避難訓練は年に1回の実施なのか?と質問がなされた。</p> <p>○学外の体験が増えつつあると感じている。社会との繋がり大切さを知ることでいい経験に繋がっていると感じる。感受性も豊かになり学校生活の楽しさを感じることができているのではないかと感じている</p> <p>○多岐にわたり事業をされていることがわかった。園児と一緒に避難訓練もよい経験なのでは と感じている。千里金蘭大学との連携も強化を図っていただければと思う。</p> <p><b>■ 第2回</b></p> <p><b>議題</b> 令和6年度学校アンケート結果と分析について</p> <p><b>報告</b></p> <p>○学校より 令和6年度学校アンケート結果と分析について説明 学力の向上、進学実績の向上、安全安心な学校づくりと自立・自律する力の育成、組織運営体制の改善、その中でそれぞれ絞って具体的な概要として関連する質問項目の中から説明がされた。</p> <p><b>委員からの意見</b></p> <p>◆学力の向上</p> <p>○今年初めての取り組みで、環境問題に関心ある生徒たちが自発的に他校の生徒と一緒に参加したボランティア活動『森の手入れを体験しよう』では、日常では体験できない経験を積むよい機会となった。</p> <p>○授業でならった英語を実際に使ってみる機会を設けることを目的に、English CAPSULEやEnglish Village[中学部]等を実施した。生徒も楽しみながら参加でき、満足度も高く成果も得〇お膳立てしたボランティア活動より、内発的な動機づけでの活動がとても大切な機会となり、 日常では体験できないこともでき、生徒からも来年も参加したいと声があった。</p> <p>◆進路実績の向上</p> <p>○今年度中学2年生対象に(11月21日・22日)15事業所で職業体験を実施した。この行事を通じて、いろいろなことに対応する力、積極的に取り組む力、人と接するときの対応力、物事を広く大きく見る力、人の役に立つことや人が嬉しいと思うことを行うなど生徒たちがこれから身につけていかないといけない力を学ぶことができ、実際に職業体験を通じて生徒たちが気づいたことはたくさんあったと感じた。</p> <p>○不登校の生徒が参加できてよかった。魅力的な体験場所が多く、学校側で見つけてこられたところがすごいと感じた。兵庫県は不登校の子は自身が通学していた小学校や幼稚園など学校関係で引き受けることが多い。金蘭は楽しい場所がたくさんあるのでよかったのではないかなと感じる。</p> <p>◆安心安全な学校づくりと自立・自律する力の育成</p> <p>○体育祭は勝利至上主義ではなく生徒・保護者全員が楽しめるものであると感じる。蘭祭(文化祭)でもみなさんの協力が得てよかった。ただ、蘭祭では生徒模擬店実施場所</p>

- 「人権教育」保護者 88→87(-1) ↓ 生徒 76→81(5) ↑ 教員 53→58(5) ↑
  - 「人権が守られる環境」  
保護者 89→86(-3) ↓ 生徒 81→82(1) ↑ 教員 77→95(18) ↑
- ◇合格後に「学校支援シート」を保護者に記入してもらい、出身校と情報共有している。
- ◇生徒、保護者とも評価が低下している。明らかに変化している生徒層（不登校傾向の生徒、経済的に困窮する生徒等）の「しんどい思い」に寄り添うことが不十分であった。
- ◇校則や指導基準に従い、小さな問題行動もあいまいにせず、厳格に罰するような指導を見直し、保護者ともしっかり意思疎通を行い、生徒成長を支援する指導が必要である。
- ◇支援コーディネーターを中心に、スクールカウンセラーとの綿密な連携を強化する必要がある。
- ◇図書館登校している生徒に対して、学習保障の観点からの教材の工夫ならび、指導体制の改善（担当者の任命等）が必要である。

**組織運営体制の改善**

- 「方針の明示」 83→84(1) ↑ 「校内体制」 39→67(28) ↑
  - 「教員間連携」 教員 44→53(9) ↑
  - 「会議運営」 41→74(33) ↑ 「計画的な研修」 65→79(14) ↑
  - 「若手教職員の育成」 65→47(-18) ↓ 5「校外研修」 65→26(-39) ↓
- ◇校長の学校経営方針が明確に示されている。「校内体制」、「教員間連携」の評価が上昇しているが、まだ、評価としては低い。また、学年や分掌によって教職員間の意思統一が不十分で、機能的な組織運営ができなかった。
- ◇会議運営については一定改善されているが、紙と時間のムダを改善するため、ICTの活用を進め、効果的・効率的な組織運営をめざす必要がある。
- ◇金蘭若手塾、Kinran.Labとも十分活動ができなかった。組織を活性化し、中堅教員をチームリーダーとして育成する必要がある。また、喫緊の教育課題に関する研修を実施し、生徒理解を深めるとともに生徒指導のスキルの向上を図る。

- や金券販売場所などの不便さを感じた。工夫する余地がある。
- 高校は中学校からの情報開示があるが、中学校では塾経由で受験する生徒が多く情報が全くなく、不登校の情報などがなかった。どのように対応する必要があるのかなどの情報をもとに保護者や小学校と繋がりを目的として「学校生活支援シート」始めた。入学前に情報をつかみ大切だと感じている
- ◆組織運営体制の改善
- 学習指導要領が変わり評価の仕方に変化があった。周知徹底の理解があり共通理解が得られ会議が短縮された。また、学年、分掌などで原案を練り会議に提示されているため時間短縮にもつながっている
- ◆全体として
- 中学部の取り組みには驚いている。ぜひ継続していただきたい。
- 英語が苦手な娘子どもにも楽しく英語を学べる機会があればと感じた。自立した活動は社会にも必要であり今後の課題を感じた。
- 高校生でも体験型があればと感じた。
- 子どもの宿題をみて教材の工夫されているのを感じた。発表前の教材研究など大変であるが作る大切さを感じている。
- 高校では体験型の機会は少ないが、成長段階に応じて提供する体験型学習機会や質も変化している。将来を考えながら職業観や思考力などを培うため、見えにくい状態なので、今後は見える化し発信していくように改善していく。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学校教育デザインの確立	<p>(1) 学校教育デザインの具体化</p> <p>(2) 「5つの力」の育成を実現する魅力的な学校づくりの推進</p>	<p>○組織方針の立案と組織の活性化 各部長・主任は、各組織をまとめ、「5つの力」を3年間(6年間)で育成する方針を明確化し、組織間連携を深め、職員会議、企画運営委員会、教科主任会議を通じて共有化する。</p> <p>① 「総合的な探究の時間」や外部団体[NPO等]との連携事業などの成果をうけ、問題解決型学習への取組みを促進する。</p> <p>② 高大連携プログラムの効果的な実施、内容の充実を図る。また、他の外部組織(医療機関、幼稚園・保育所、大学)との連携も推進する。</p> <p>③ 授業方法の工夫(習熟度別授業・チームティーチング)の成果を受け、引き続き学力の定着を図るとともに、学力上位層の生徒の学力をさらに伸ばす取組の実施など、個に応じた丁寧な指導を実施する。</p> <p>④ 中学部では、引き続き学力保障の取組みの充実を図る。習熟度別授業の実施など、個に応じた丁寧な学習指導を実施する。また、高校を含め、千里金蘭大学・金蘭会保育園、地域や同窓会等との連携を進め、連携授業や職場体験等キャリア教育の充実を図る。</p>	<p>●アンケート「満足度」 (保護者)95%[94%(R5)] (生徒)90%[86%(R5)] (教員)85%[78%(R5)]</p> <p>●アンケート「特色ある教育活動」 (保護者)90%[85%(R5)] (生徒)85%[81%(R5)] (教員)70%[39%(R5)]</p> <p>●アンケート「教育方針明示」 (保護者)90%[85%(R5)]</p> <p>●キャリアプログラム体験週間の実施</p>	<p>(1) ●「満足度」(保護者)89%(△)・(生徒)87%(○) ●「特色ある教育活動」(保護者)77%(△)・(生徒)83%(○) ●「教育方針の明示」(保護者)76%(△) ・保護者、生徒に対して、方針について理解を得ているが、特に保護者の評価が低下している。 ・学年、教科、分掌が組織として、意思統一を徹底し、方針や教育実践の成果を発信していく必要がある。</p> <p>(2)●「満足度」(教員)90%(○) ●「特色ある教育活動」(教員)53%(△) ・学年、教科・エリア、進路指導部それぞれが千里金蘭大学、金蘭会保育園、外部団体との連携を積極的に実施した。 ・中学部が「職業体験」(15事業所、2日間)の実施や、従来の地域の幼稚園との交流だけでなく、「Kinranハロウィン」の開催など地域との連携を強化することでできている。今後、地域の諸団体との連携が重要である。 ・英語教育の強化の一環として中学部での英語教育の強化のため、中学校では英語パワーアッププログラムを今年度より本格的に実施している。海外研修(イギリス・ニュージーランド)を企画したが、募集定員に足せず実施できなかった。 ・「総合的な探究の時間」、各コースで実施されている科目「探究」だけでなく、他教科での問題解決型学習への取組みを推進し、「思考力・判断力・表現力」の育成をさらに推進する必要がある。</p>
2 学力の向上	<p>(1) 学力向上策の実施</p> <p>(2) 授業力の向上</p> <p>(3) 「総合的な探究の時間」のプログラムの確立</p>	<p>① 学年主任・教科主任はリーダーシップを発揮して、各学年・各教科において、生徒の状況を絶えず共通理解を図るとともに、教務部・学年・教科と連携して、個に応じた方策を具体化する</p> <p>② 到達度別授業の内容が個に応じたものになっているかを検証し授業改善を進める。</p> <p>③ 学力上位層の生徒の学力をさらに伸ばす取組の充実を図る。</p> <p>① 教務部は、教科主任会議・コース長会議の定例化を図り授業改善を図る</p> <p>② 教務部は、kinran labと連携し、研究授業週間年2回(6月、11月)に設け、教員相互の授業見学を実施する。また、各教科は期間内で必ず研究授業を実施する。</p> <p>③ 教務部は、金蘭若手塾と連携し、授業づくり・評価の在り方・生徒理解を中心とした研修を行う。</p> <p>④ 教科主任は教科主任会議で話された内容を教科内で共有するとともに授業改善を図る。</p> <p>⑤ 不登校傾向の生徒の増加に伴い、課題である学力保障の支援体制の充実を図る。”</p> <p>① 「総合的な探究の時間」の成果をうけ、「探究科目」の充実を図るとともに、他教科での問題解決型学習への取組みを促進する。</p> <p>② 全校で北区の取り組みなど地域との連携を強化することで、キャリア(進路)学習の充実を図る。</p>	<p>●アンケート「授業満足度」 (保護者)75%[66%(R5)] (生徒)80%[71%(R5)]</p> <p>●アンケート「家庭学習定着」 (保護者)80%[73%(R5)] (生徒)75%[69%(R5)] (教員)70%[65%(R5)]</p> <p>●アンケート「授業改善」 (保護者)85%[78%(R5)] (生徒)80%[73%(R5)] (教員)80%[77%(R5)]</p> <p>●アンケート「参加体験型」 (生徒)65%[47%(R5)] (教員)75%[71%(R5)]</p> <p>●アンケート「考えをまとめ発表」 (生徒)85%[83%(R5)] (教員)70%[65%(R5)]</p> <p>●授業公開と研究協議会の開催</p> <p>●外部講師による研修</p>	<p>(1) ●「授業満足度」(保護者)68%(△)・(生徒)80%(○) ●「家庭学習定着」 (保護者)75%(△)・(生徒)73%(○)・(教員)68%(○) * 高1リメディアルの充実(国数英3教科での到達度別授業) * 高校到達度別授業([英語]ベーシック・アドバンス) * 中学数学・英語:習熟度別授業(標準・発展) * 中学校英語パワーアッププログラム English Capsule・中学 English Days[12月] ・ English Village[7・12月各2日間実施] * 英語学習方法「CLIL(クリル)」の実施 * 高3「卒業レポート」の作成 * 高2「文化理解」(文理進学コース[総合])、高3「探究」(文理進学コース[総合])・(看護医療)の実施 ・授業についての評価は上昇しているがまだ低い。 ・高校や中学部とも、国語、数学、英語においても到達度別や少人数授業を実施し、学びなおしの点からも評価されている。 ・今後は、到達度別授業の内容が個に応じた内容になっているのか[学力上位層の生徒の位置づけ]を含め検証を進める必要がある。</p> <p>(2)・(3) ●「授業改善」 (保護者)77%(△)・(生徒)80%(○)・(教員)95%(○) ●「参加体験型」(生徒)50%(△)・(教員)74%(○) ●「考えをまとめ発表」(生徒)79%(△)・(教員)65%(○) ・「授業改善」の評価が低下している。「考えをまとめ発表」、「ICT等の活用」について、生徒の評価が減少している一方で、教員の評価が上昇するという意識の乖離があり、生徒主体の授業への改善が急務である。 ・「総合的な探究の時間」、各コースで実施されている科目「探究」だけでなく、他教科での問題解決型学習への取組みを推進し、「思考力・判断力・表現力」の育成をさらに推進する必要がある。 ・金蘭若手塾、Kinran.Labとも活動ができなかった。組織を活性化し、中堅教員をチームリーダーとして育成する必要がある。 ・また、喫緊の教育課題に関する研修をタイムリーに実施し、生徒理解を深めるとともに生徒指導のスキルの向上を図る。</p>

<p>3 進学実績の向上</p>	<p>(1) 3年間或いは6年間を見通した、一貫した進路指導体制の確立</p>	<p>① 計画的な進路HRや進路学習を通して3年間・6年間を通した継続的な進路学習計画を実施する。 ② 最新の進路情報をかりやすくて確かな情報を提供し、3者すべてにおいて進路意識を高めていく。 ③ 実力テスト(11月)を高1・2で1回ずつ実施。高3では2回(6月・9月)実施し、正しい学力をはかり進路への正しい認識を持たせる。 ④ 進路指導部と学年の連携を図り、実力テスト等のデータをしっかり把握して、学力の向上をめざす。</p>	<p>●アンケート「進路指導(連携)」 (保護者)90%[85%(R5)] (教員)90%[84%(R5)] ●アンケート「進路指導(取り組み)」 (保護者)95%[90%(R5)] (生徒)90%[84%(R5)] (教員)60%[55%(R5)] ●保護者対象の進路説明会実施 ●アンケート「キャリア教育」 (生徒)95%[91%(R5)] (教員)75%[71%(R5)] ●アンケート「生き方を考える」 (保護者)95%[89%(R5)] (生徒)75%[71%(R5)] (教員)60%[53%(R5)] ●コース独自キャリアプログラムの実施 ●アンケート「大学等との連携」 (保護者)95%[90%(R5)] (生徒)75%[71%(R5)] (教員)85%[78%(R5)]</p>	<p>●「進路指導(連携)」(保護者)80%(△)・(教員)74%(△) ●「進路指導(取り組み)」 (保護者)89%(△)・(生徒)84%(△)・(教員)78%(○) ●「キャリア教育」(生徒)89%(△)・(教員)79%(○) ●「大学等との連携」 (保護者)91%(△)・(生徒)71%(△)・(教員)78%(△)</p>
	<p>(2) キャリア教育の推進</p>	<p>① 進路学習については、高校の各学年課題に応じて「職業別」・「学問分野別」・「入試直前」等の進路HRを実施する。 ② 「社会で貢献する女性を育てるプログラム」として「進路探求プログラム」を実施する。 ③ 保護者対象のキャリア教育プログラム(進路説明会等)を充実させ、進路情報の発信を強化する。 ④ 教員の進路指導力を強化するため、入試制度やその他進路に関わる情報を共有するとともに進路研修を実施する。</p>	<p>●アンケート「大学等との連携」 (保護者)95%[90%(R5)] (生徒)75%[71%(R5)] (教員)85%[78%(R5)]</p>	<p>* 高校学年別進路保護者会の実施 * 進路保護者勉強会の実施(年3回) * 進路探求プログラムの実施(長期休業中) * 看護医療職プログラム(多根総合病院・住友病院)の実施 * 中2:職業体験[11月] * KINRAN ハロウィン[子ども教育エリア、10月] * 中学・千里金蘭大学栄養学部との連携授業[食育、9月] * 中学・〃教育学部・金蘭会保育園との保育交流[11月] * 高校・千里金蘭大学栄養学部食物との連携授業[クリスマス・節分給食メニュー、家庭科、9~1月] * 高校・〃教育学部・金蘭会保育園との保育交流[子ども教育エリア、4月~] * 中学部「マーチフェスタ」[3月]</p>
	<p>(3) 千里金蘭大学・金蘭会保育園との連携</p>	<p>① 中学・高校・大学間に担当者・実務者会議を通じて、進路HR、「総合的な探究の時間」、各教科、その他学校行事等で円滑に効果的な連携を進め「中高大連携プログラム」の充実を図る。 ② 3者面談期間(6月・11月)に千里金蘭大学説明会の実施、高大連携プログラムなどの活動を通じて内部進学を促進を図る。</p>		<p>・進路保護者会や進路勉強会を実施し、進路情報の発信を強化することで保護者の進路意識を高めることができた。 ・進路HRや総合的な探究の時間、「キャリア」を通じて高1の段階から計画的な進路指導は一定の評価を得た。 ・「連携」、「情報提供」は数値を下げている、担任を中心に各学年が、進路指導部と連携を強化し、3年間を見通した進路指導が必要である。 ・千里金蘭大学や保育園との連携の強化と、進路探究プログラム・看護医療職プログラムの完全実施により系統だった指導が高く評価されている。ただ、生徒の進路希望を考慮すると他大学との連携強化が必要である。 ・今年度より中学部が「職業体験」(15事業所、2日間)の実施や、従来の地域の幼稚園との交流だけでなく、「Kinranハロウィン」の開催など地域との連携を強化することでできている。今後、地域の諸団体との連携が重要である。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 安全安心な学校づくりと自立・自律する力の育成</p>	<p>(1) 人間関係づくりの充実</p>	<p>① 学年は、生徒の状況の集約に努め、生徒を主体にした安全・安心なクラス・学年集団づくりを行うために、学年の3年間を見通した「学年集団づくり」方針を確定する。</p> <p>② 担任は、生徒の状況を把握し「クラスづくり」方針を考える。情報は学年で共有する</p> <p>③ クラス・学年活動を通じて市民として主体的に社会に参画する力を育成する</p> <p>④ 学年は、学年行事(修学旅行、遠足等)での生徒による主体的・自治的な取り組みの促進を図るため、生徒実行委員会等を組織する。</p>	<p>●アンケート「人権教育」 (保護者)95%[88%(R5)] (生徒)80%[76%(R5)] (教員)60%[53%(R5)]</p> <p>●アンケート「安心安全な環境」 (保護者)95%[89%(R5)] (生徒)90%[82%(R5)] (教員)80%[77%(R5)]</p> <p>●アンケート「いじめへの対応」 (保護者)95%[89%(R5)] (生徒)85%[77%(R5)] (教員)70%[65%(R5)]</p> <p>●アンケート「生徒指導方針」 (保護者)90%[82%(R5)] (生徒)85%[80%(R5)] (教員)65%[59%(R5)]</p> <p>●アンケート「方針への共感」 (保護者)95%[92%(R5)] (生徒)75%[71%(R5)] (教員)85%[81%(R5)]</p> <p>●アンケート「学校行事」 (保護者)95%[91%(R5)] (生徒)90%[85%(R5)] (教員)85%[82%(R5)]</p> <p>●アンケート「生徒自治会活動」 (保護者)95%[89%(R5)] (生徒)90%[84%(R5)] (教員)70%[65%(R5)]</p> <p>●アンケート「教育相談体制」 (保護者)90%[86%(R5)] (生徒)70%[62%(R5)] (教員)70%[65%(R5)]</p>	<p>1)●「学校行事」 (保護者)89%(△)・(生徒)85%(△)・教員 95%(○)</p> <p>●「生徒自治会活動」 (保護者)83%(△)・(生徒)80%(△)・(教員)68%(△)</p>
	<p>(2) 生徒の主体性の育成</p>	<p>① 成人年齢が18歳になることを受け、市民として主体的に社会に参画する力を育成するため、生徒の生活規律(授業規律や校則・マナー等)に対して、生徒委員会を組織するなど主体的な取り組みを推進する。</p> <p>② 蘭祭・体育祭等の学校行事について、昨年に引き続き、生徒自治会を核に生徒の参画を推進して行く。自治会と生徒委員会を連携させて、実施形態や方法を検討し、生徒による運営を進める。</p>	<p>●アンケート「方針への共感」 (保護者)95%[92%(R5)] (生徒)75%[71%(R5)] (教員)85%[81%(R5)]</p> <p>●アンケート「学校行事」 (保護者)95%[91%(R5)] (生徒)90%[85%(R5)] (教員)85%[82%(R5)]</p> <p>●アンケート「生徒自治会活動」 (保護者)95%[89%(R5)] (生徒)90%[84%(R5)] (教員)70%[65%(R5)]</p> <p>●アンケート「教育相談体制」 (保護者)90%[86%(R5)] (生徒)70%[62%(R5)] (教員)70%[65%(R5)]</p>	<p>(2)</p> <p>●「生徒指導方針」 (保護者)80%(△)・(生徒)80%(△)・(教員)74%(○)</p> <p>●「方針への共感」 (保護者)78%(×)・(生徒)80%(○)・(教員)84%(○)</p> <p>・蘭祭と体育祭において生徒主体の取組みは定着しているが、「自治会活動」について保護者・生徒の評価は低下している。</p> <p>・生徒にやらされ感・不満があり、自治会を中心に学校行事の企画運営を委ね、自ら行動する力を育成する必要である。</p> <p>・「方針」、「方針への共感」について、保護者の評価が大きく低下している。生起する案件の多くはSNS関連であり、弁護士、警察等とも連携し取り組んでいるが、より保護者の理解と協力が必要である。</p>
	<p>(3) 支援が必要とされる生徒への対応</p>	<p>① 生徒支援委員会体制の整備を図る。支援の対象は、不登校傾向を示す生徒だけでなく、健康面で配慮を要する(障がいのある生徒)も含め、綿密な情報交換(共有)を行う。</p> <p>② 支援教育コーディネーター(正・副)を核に効率的・機能的な運営を図る。</p> <p>③ 全体の委員会を学期1回とする。中学部・高校部それぞれの小委員会とし、月1回実施し、生徒情報の共有化と上記の生徒支援について具体化を図る。</p> <p>④ 個別の支援計画の充実を図る。本人並び保護者との綿密な連携のもと、生徒本人の目標を設定するとともに各年度の年間目標を設定する。”</p> <p>⑤ 不登校傾向の生徒の増加に伴い、課題である学力保障の支援体制の充実を図る。</p>	<p>●アンケート「人権教育」 (保護者)87%(△)・(生徒)81%(○)・(教員)58%(△)</p> <p>●「安心安全な環境」 (保護者)86%(△)・(生徒)82%(△)・(教員)95%(○)</p> <p>●「いじめへの対応」 (保護者)87%(△)・(生徒)77%(△)・(教員)74%(○)</p> <p>●「教育相談体制」 (保護者)83%(△)・(生徒)59%(×)・(教員)84%(○)</p>	<p>(3)</p> <p>●「人権教育」 (保護者)87%(△)・(生徒)81%(○)・(教員)58%(△)</p> <p>●「安心安全な環境」 (保護者)86%(△)・(生徒)82%(△)・(教員)95%(○)</p> <p>●「いじめへの対応」 (保護者)87%(△)・(生徒)77%(△)・(教員)74%(○)</p> <p>●「教育相談体制」 (保護者)83%(△)・(生徒)59%(×)・(教員)84%(○)</p> <p>・入学前に「生活支援シート」を記入してもらい、出身校との連携も強化し生徒情報を早期から共有している</p> <p>・生徒、保護者とも評価が低下している。変化している生徒層(不登校傾向の生徒、経済的に困窮する生徒等)の状況の把握と理解が不十分であった。</p> <p>・校則や指導基準に縛られた厳格に罰するような指導を見直し、保護者ともしっかり意思疎通を行い、生徒成長を支援する指導が必要である。</p> <p>・支援コーディネーターを中心に、スクールカウンセラーとの綿密な連携を強化する必要がある。</p> <p>・図書館登校している生徒に対して、学習保障の観点からの教材の工夫ならび、指導体制の改善(担当者の任命等)が必要である。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">5 魅力的な学校づくりと機能的な学校運営の確立</p>	<p>(1) 様々な場面を通じた効果的な募集広報活動への改革</p>	<p>① 募集広報活動を学校全体での取り組みとし、全教職員で常時共有する。</p> <p>② 「金蘭会がさらに変わろうとしている」ということがストレートに伝わるような広報活動(イベント内容の改善、HP・SNSの充実)を図る。</p> <p>③ 訪問活動に関しては、重点地域(主に大阪市内)を過去の実績から大きく見直し、集中して訪問する体制を整える。</p>	<p>●中学校オープンスクール参加数 各回 20 組以上</p> <p>●中学校入試説明会参加数 各回 20 組以上</p> <p>●高校オープンスクール参加数 各回 100 組以上</p> <p>●高校入試説明会参加数 各回 100 組以上</p>	<p>(1)</p> <p>・目標である中高併せて 200 名には達しなかったが、中高併せて 196 名を達成した。</p> <p>・オープンスクール参加者は中学 191 名、高校 668 名と昨年度から増加しているが、学校説明会参加者は中学 25 名、高校 186 名で昨年度より若干減少している。</p> <p>・中学において、オープンスクールの 1 回増設、「プレテスト返却会」の新設、入試教科変更など改善に取り組み、校内イベント公開(文化祭 マーチフェスタ)を実施したことが結果として結びついている。</p> <p>・高校でも昨年度を上回ることはできたが、無償化の影響で公立志望者の併願の戻りが極端に減少するなかでコースの学びや、生徒の雰囲気を変え、専願受験者が増やさなければならぬ。</p>
	<p>(2) 将来安定的な中学入学者の獲得</p>	<p>○ 地域との連携強化を強化する。北区との連携事業への参加、土曜日プログラム(小学生対象の英会話教室など)の充実を図る。</p>	<p>●学校運営協議会の実施</p> <p>●自己評価アンケート結果と学校運営協議会評価のホームページ公開</p>	<p>(2)・小学生対象のわくわく教室は地域イベントとして定着している。英会話や新体操だけでなく、家庭科(調理実習、ハンドクラフトなど)など多方面にわたる春・夏・冬に実施し、多くの参加を得た。</p>
	<p>(3) PDCAサイクルの徹底</p>	<p>○ 各分掌学年は、具体的なデータや根拠に基づいた総括や評価を徹底し、課題と方針を明確にするPDCAサイクルを確立する</p>	<p>●教職員研修の実施</p> <p>●若手対象教職員研修の実施回数</p> <p>●アンケート</p> <p>「教員間連携」 60% [44%(R5)]</p> <p>「会議運営」 60% [42%(R5)]</p> <p>「計画的な研修」 70% [65%(R5)]</p> <p>「若手教員の育成」 70% [65%(R5)]</p> <p>「校外研修」 70% [65%(R5)]</p>	<p>(3)・学校運営協議会を 2 回実施した</p> <p>・自己評価アンケート(12 月)の結果を学校運営協議会(2 月)に報告した。</p>
	<p>(4) 組織運営体制の充実と教師力の向上</p>	<p>① 組織改革を実施し、適材適所の人事配置と役割分担により、教職員が意欲的に取り組むことができる体制を確立する。</p> <p>② 職員の意識改革を進め、効果的・効率的な組織運営をめざすために、教職員に自らの役割の自覚、協働する意識を徹底する。</p> <p>③ 金蘭若手塾や KinranLab. を核に、中堅・若手層が中心となって、授業力向上や学校が直面する課題(制服問題等)を課題解決に取り組む。</p>		<p>(4)</p> <p>●「教員間連携」52%(△)「会議運営」74%(○)</p> <p>●「計画的な研修」78%(○)「若手教職員の育成」47%(×)</p> <p>「校外研修」26%(×)</p> <p>・「教員間連携」の評価が上昇しているが、まだ、評価としては低い。また、学年や分掌によって教職員間の意思統一が不十分で、機能的な組織運営ができなかった。</p> <p>・会議運営については改善されたが、紙と時間のムダを改善するため、ICTの活用を進め、効果的・効率的な組織運営をめざす必要がある。</p> <p>・金蘭若手塾、Kinran.Lab とも活動ができなかった。組織を活性化し、中堅教員をチームリーダーとして育成する必要がある。</p> <p>・喫緊の教育課題に関する研修をタイムリーに実施し、生徒理解を深めるとともに生徒指導のスキルの向上を図る。</p>